

経営比較分析表（平成30年度決算）

熊本県水俣市 国保水俣市立総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド透訓	救 臨 感 災 地 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
24,705	29,327	非該当	10：1	

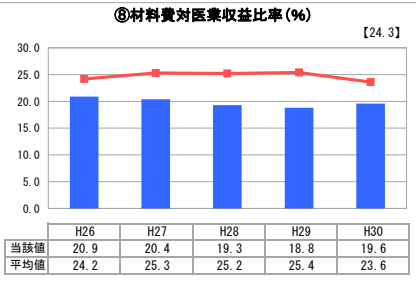
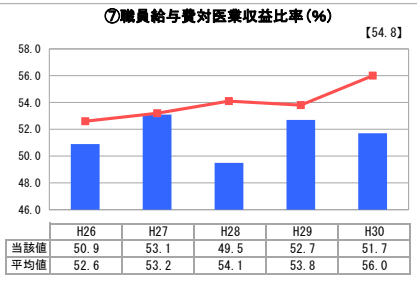
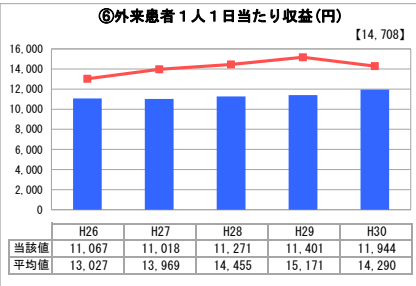
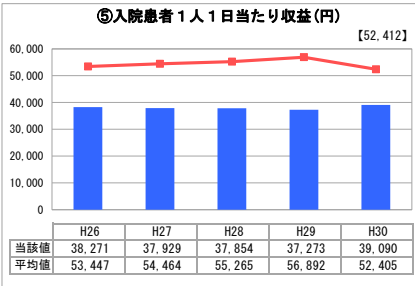
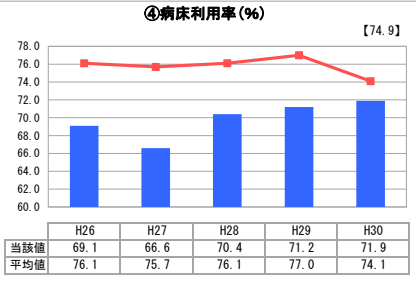
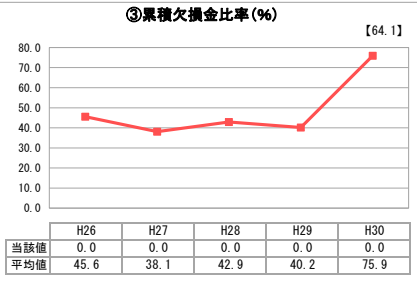
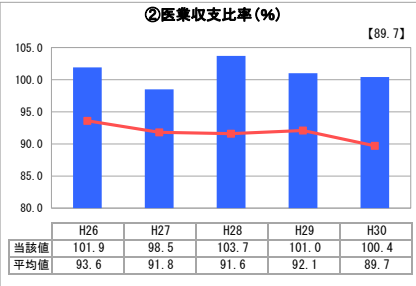
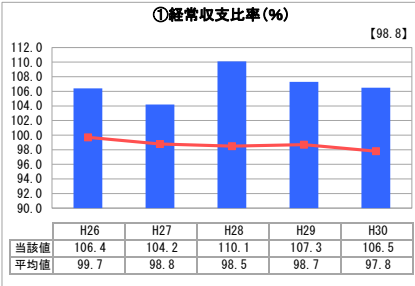
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

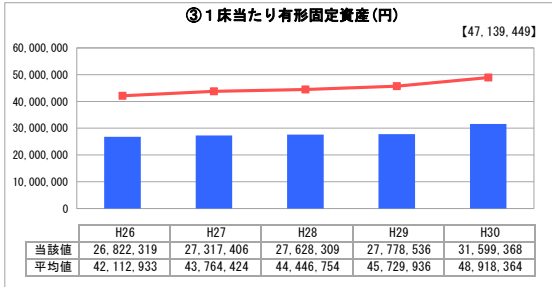
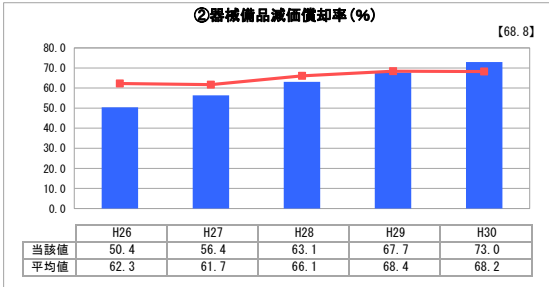
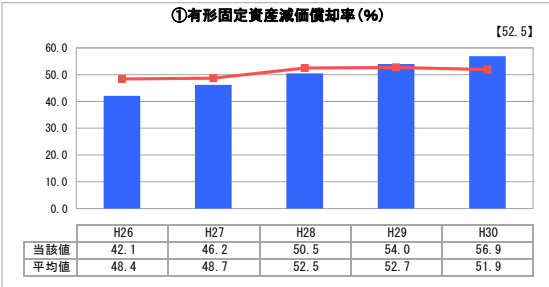
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
357	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	361
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
351	-	351

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

①過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域に立地して一般医療の提供を行っている。また中山間地域にへき地診療所（附属久木野診療所）も運営している。
②24時間365日の救急医療、小児・周産期医療の提供、災害拠点病院としての運営を行っている。
③高額医療機器の整備を計画的に行い高度医療の提供に努めている。
④地域医療支援病院の指定があり、地域の医療従事者の教育研修の拠点としての役割がある。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び医業収支比率共に100%を超え、累積欠損金も発生していないため、現状、経営状況は良好である。
病用利用率が平均値より低く、平成30年度は稼働病床に対する病床利用率でも80%を下回った。
患者1日当たりの収益も平均値より下回っており、今後、診療単価を増やす取組みが必要だと考える。
給与費比率、材料費比率が平均値より低く抑えられており、適正にコントロールできている。病院規模に相応する診療収入が得られたものと考えている。

2. 老朽化の状況について

これまで、経営状況を見ながら計画的な更新投資を行ってきたが、それが減価償却に係る各種指標に表れているものと考えている。
しかし、施設、設備ともに老朽化が進んできている状況にあり、その更新投資については、これまで以上に今後の経営状況を見ながら慎重に判断することが必要だと考えている。

全体総括

現在のところ概ね良好な経営ができていますが、今後、当院が位置する医療圏の人口減少は避けられない状況にあり、外部環境から医業収益の増は見込みにくい状況にあると考えている。
今後、病院経営はさらに厳しいものになっていくと予想しており、限界利益率を高める、限界利益を増加させる取組みが必要である。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。